

平成30年度 インターネット依存症予防教室（西部ブロック研修会）

## パネルディスカッションの発言内容

平成30年9月8日（土）15:35～16:15

高崎市市民活動センター・ソシアス

### テーマ 「インターネットの危険性と家庭・学校・地域における ルールづくりの必要性」

- コーディネーター 波呂 啓介 氏（NPO法人ぐんま子どもセーフネット活動委員会）
- パネリスト
  - ・ 吉村小児科院長、日本小児科医会子どもとメディア委員会担当理事 内海 裕美 氏
  - ・ 群馬県警察本部少年課少年育成センター 調査官 神保 衛 氏
  - ・ 高崎市PTA連合会 会長 大澤 博史 氏

**波呂** 青少年のインターネット安全安心利用について研究や講話等をしています「NPO法人ぐんま子どもセーフネット活動委員会」の波呂です。

まずは、パネリストの皆さんから自己紹介と内海先生の講演を伺った感想について、警察本部の神保さんから、お願いします。

#### <自己紹介と講演の感想など>

**神保** 警察本部少年課少年育成センターの調査官として勤務する神保です。昨年度までは、中学校の教員をやっておりまして、今年の4月の異動で警察に勤務しています。調査官とは、非行少年に関わる問題やその原因、背景などについて調査・研究し、学校や警察の関係団体の会議などで伝える活動を行っています。また、少年育成センターでは、少年相談、非行少年などの居場所作り活動を行っていて、この活動では、高崎市の青少年育成推進員を始めとする多くのボランティアの方々にお世話になっております。

さて、本日の講演を聴いて、ある川柳を思い出しました。それは、『パパ子守り 子ども泣き止む YouTube（ユーチューブ）』です。これは、ママに子守りをお願いされたパパが泣き止ませるために、インターネットのユーチューブという動画を見せて子どもが泣き止んだという状況です。（内海先生の）講演の冒頭、外国の動画でパパが抱きしめて子どもが泣き止んでましたけれど、日本ではまだユーチューブで泣き止んでいる子どもがいるのかなあ、と思います。またこのことから、親子関係とインターネットの問題は密接に関係していて、親だけでは解決できない、社会全体で取り組む問題なのではと感じました。

**大澤** 今年度高崎市PTA連合会の会長を務めております大澤です。高崎市立第一中学校のPTA会長も務めております。PTA活動について紹介をさせていただきます。私自身小学校6年間、中学校

3年間のPTA活動に参加をしています。ここ最近、テレビや新聞などでPTA不要論のようなことが言われておりまして、なかなかPTA活動を理解いただけない保護者の方もいます。PTAというと、とかくバザーやセミナーなどの行事ばかりが取り上げられてしまって、そういったことへの負担感ばかりに焦点が行ってしまうんですが、私達保護者が学校に関わっていくことそのものが大事だと思っています。学校に（保護者が）顔を出すと、子どもたちから「〇〇ちゃんのお父さん来てるよ」と言われます。（このように関わることで、）例えばいじめの抑止になったり、部活や勉強にも良い方向に関わっていけるのではないかと思います。

私は本日、親の責任を果たせていない親としてこの場に呼んでいただいたのかなあ、と思います。講演でスマホの話聞いて、本当に心が痛い場面が多々ありました。そんな実体験を含めた話を聞いて頂ければと思います。

### <中学生の保護者の実例>

**波呂** 本日のパネルディスカッションでは、研修会に参加した方達が、お子さんやお孫さんに対して、一つでも二つでも御家庭に持ち帰って頂けるよう話をすすめます。大澤さんの家では、お子さんにスマートフォンを持たせているとのこと。大澤さんの家のお話をいただけますか？



**大澤** 本当は、子ども（中学生）には（スマホを）持たせていないと自信を持って言えればいいんですが、実態はそうではなくて、高崎市のデータでも、約30%がスマホを持ってて、約20%が何らかのインターネット機器を持っているということでした。（我が家が持たせた）きっかけは、子どもから「〇〇ちゃんは持っている。今度、高崎祭りに行くので、はぐれたら連絡がつかなくなる。その日だけでも持たせて。」と言われたことです。中学2年の娘なので、正直私も甘い部分があって、高崎祭りの時だけならいいかなと考え、持たせました。そして、その日だけだったのが、しばらくすると娘から「土日だけ使っている？」と言われ、土日だけならいいかな、となりました。しばらく土日だけの使用が続いていました。ある日、娘からすると祖父が（スマホの）機種交換をするからということで、携帯会社に行った際に、（以前の）スマホを返却すれば良かったのですが、持って帰って「これ使えるから」と言って、私の知らない所で娘に渡していたということがありました。それ以来、なし崩し的に娘は持つようになってしまいました。半年ほど前のことです。今では、すっかり自分のスマホということで使用しています。

持ってしまったからには、パスワード管理をしたり、なるべく中身を確認するようにしています。とは言え、知らないアプリやサイトを使っている可能性はある訳で、そこまで完全に把握することはできないと感じています。

**波呂** 祖父も『お孫さんが喜ぶから、良かれ』とっての行動だと思います。

神保さんから、よく知らないうちに被害に遭うという自撮り被害などのお話をお願いします。

### < SNSの犯罪被害の現状や背景 >

**神保** 全国でSNSがきっかけで犯罪被害に遭った18歳未満の子どもの数は、平成29年は1,813人で、過去10年で最多となりました。青少年がスマートフォンや携帯電話を持つ数が増えるにつれて、(被害が)多くなっています。被害の主な原因は、一つがお金とか物が欲しいという金品目的による児童買春、もう一つがSNSで知り合った相手に自分の裸の画像を撮影して送る「自撮り被害」が増加したため、とされています。被害を防止するために、群馬県では、県と県警が連携して、セーフネット標語「おぜのかみさま」によって、インターネットの安全安心利用を呼びかけています。「おぜのかみさま」の「お」については、「写真を送らない」というものですが、悪い大人は、巧妙な手口で(自撮りの)裸の画像を送らせています。

**波呂** ありがとうございます。青少年が、簡単に送ってしまう背景を教えてください。

**神保** 最近のスマホは、簡単に画像が送れるように機能が進化しています。昔であれば、写真を撮って店に持って行って現像するという流れでしたが、今は撮影したものをすぐに、そしてボタン1つか2つの操作で簡単に送ってしまう。また、子どもたちの画像を送ることへの抵抗感が低くなっていることなどが、原因として考えられます。

**波呂** 子どもたちが画像を送ることについて、抵抗感がないという話がありました。内海先生の講演の中にも、簡単に写真が撮れて、送ってしまうことにより、様々なことが発生し、児童ポルノの問題につながるという話もありました。内海先生にもお話を伺いたいと思います。

**内海** 先程話のあった、被害者数1,813人は多分氷山の一角ですね。これは実数ではなくて、実際にはもっと多くの方が被害に遭って悩んでいます。事件として発覚した数字(が1,813人)です。子どもたちは(被害について)、基本親に話しませんので、もっともっと被害に遭っている人がいます。性被害も同様です。被害に遭った子どもたちは、危険性を理解していない。親も危険性について話す機会を作っていない。自分の裸の写真を送ることで、どのような危険に遭うのかという話だけではなくて、『自分を大切にするとはどういうことなのか』ということを育む。例えばお腹が痛かったらさすってあげる、怪我をしたら手当てをしてあげるなど、子どもの気持ちや体に耳を傾けていれば、『自分は大切にされている、自分は大切な存在』という自覚が生まれる。自分の体を傷つける子どもたちは、大切にされていないと感じている子どもが多いです。そのようなこと(背景)も含めて、裸の写真を送ること(状況や要因)について話します。裸の写真は(世の中に)あふれています。テレビなどでも見られます。いつからこんな時代になったのか、

抵抗感がなくなっている。ですから、普段から子どもたちには、「裸になると大事なところがみえてしまうよ、大切なことなんだよ」と小さいうちから教える必要があります。まして、ネット上の画像は何でもありの状態です。こんなことを大人はやっているのかというものを、子どもたちは見るので、抵抗感はなくなる。学校、家庭を含めて社会全体で考えていかなければならない問題です。

#### <保護者から見たスマホ>

**波呂** ありがとうございます。(先程話のあった)祖父の使わなくなったスマホは、全てのことが出来たり、見たりすることの出来るいわゆるフルスペックの状態ですから、危険性は高いです。

県青少年育成推進会議の下田会長から、冒頭の御挨拶の中で「親は、子育てが楽しいと思いながら、子どもと向き合って欲しい」というお話がありました。地域の皆様も子どもたちに顔を見せて、地域の活動をして欲しいというお話しでした。

大澤さんから、スマホとの関わり方について、反省点を含めてお話し頂けますか？

**大澤** 自分を正当化してしまう言い方ですが「仕事で使っているから、仕方ないじゃないか」と思っている部分があります。(スマホの関わり方の一例として)出掛けようとする時、財布を忘れても、スマホだけは持って行く、ということがよくあります。私自身、一つの道具としてスマホを使っていますし、無いと困ると思っています。子どもの前での使い方を振り返ると、子どもと会話をすべきタイミングのところで、ラインが届けばスマホを確認してしまう。また、ゲームはしてませんが、インターネットでの調べ物はしています。子どもの前でのそのような行動は多々あります。それを見ている子どもたちからすると、「お父さんも使っているからいいじゃないか」という話にもなるでしょうし、「お父さんはお前と違うんだよ」と言っても、説得力は全くないと思います。そのような行動が反省すべき点だと思っています。

ただそうは言っても、ネットでの犯罪や事件には巻き込まれて欲しくはないですから、(子どもには)上手に使って欲しい。子どもに対して、そのように指導できる説得力を身につけていきたいですし、自分自身も注意していきたいと強く感じています。

#### <SNS被害の理由と最近の青少年との接し方>

**波呂** SNS被害の理由について、神保さんお話し頂けますか？

**神保** 先程お話ししたSNS被害の1,813人に、なぜ被疑者に会ったのかという理由を聞いたデータがあります。理由の第1位は、「お金や物が貰える」で約30%。問題は第2位の理由で、「相



手が優しかった」「相談に乗ってくれた」で22.9%いました。これは、約4人に1人がSNSの中で、相手に優しさを求め、被害に遭っているということです。孤独な子どもがSNSに優しさを求めているといえるかもしれません。知らない人に優しさを求めるというのは、なぜなのかわからないというのが、私の実感です。今の子どもにとって優しさとは何だろうと考えさせられました。この問題は、SNSの危険性を子どもたちに話すだけでは解決しない問題で、もっと子どもたちの心に寄り添う対策を考えていかなければならない根深い問題ではないかと感じています。

**波呂** 子どもたちがSNSに優しさを求めているということは、家庭や地域には無いということになるのではないのでしょうか。大人が子どもたちに寄り添い、気にかけてくれるということが、子どもにとって大事だということのお話しが内海先生からありました。印象的なお話しとして、「挨拶される子がいい子ではなくて、挨拶をされる子がいい子になっていく」という言葉でした。警察から(SNS被害の理由に)優しさを求めるという話がありましたが、内海先生いかがでしょうか。

**内海** 人との付き合いは煩わしいところがあります。例えば、近所付き合いなどちょっと煩わしいけど、ある程度すると楽しいこともある。ところが、子どもたちは、そのことを知らない。SNSにはまる人は50代でもいますが、大人は自己責任ですし、そこまで社会的に育っています。しかし、子どもたちには時間が無駄になるし、発達の機会を奪われて非常に損です。(SNSに)1年間はまって中学生が学校に行かなかった場合と、40代の方が会社を休んだ場合では全然違います。一生通じて損をしてしまいます。

親が良かれと思って言ったことは、子どもにはそんなに伝わらない。例えば、叱ったとして、(家庭内に兄弟が居る場合)お兄ちゃんが「お母さんはあんなにきつく言ったんだけど、お母さんはあんなふうに思って言ったんだよ」と修正をしてくれますが、(居ない場合、叱ったということが)ストレートに伝わる。子育てはとても大変。親がやらなくちゃならないことはたくさんある。だからこそ、地域の方のフォローが必要。多くの地域で行われているパトロールですが、子どもたちにとっては、見張られていると考えるかもしれない。それでも、いつも毎朝元気に会えるのを、おじさん、おばさんは楽しみにしているんだよ、ちょっと気にかけているんだよ、という姿を子どもたちに見せることが大切。人を気にかける行為自体を自分の中でどの程度まで意識できるか。自分の立場ではなくて、相手の立場になって考えます。私達は、人のためではなく自分のためにやっているのが実際ですから、相手の立場になってというのはすごく難しいことなんです。例えば子育ては、子どものためにお弁当を作っているだけでなく、「お弁当を作って、(子どもが)喜んでくれるかな」と期待している自分がいるということを思っていないと、(お弁当を)残された時に怒ってしまう。相手の立場に立てば怒ることもない。人間は複雑な生き物で、自己中心的な生き物ということを実感しながらやっていかないと、押しつけだったり、心のこもらない、相手の立場に立っていない行動になる。「それはダメだよ」と説教するのではなく



て、「何やっているの、楽しそうだね」と子どものやっていることに興味を持つ。まずは、子どものやっていることを否定しない。そういう大人がいると（子どもに）思われて、仲良くなると、耳を傾けてくれない。そんな中で、信頼関係を築いて、「このままじゃまずいな」と子どもが考える時期に、「じゃあ、一緒に考えよう」という大人がいると、子どもはこちらになびいてくれます。最初から睡眠時間が大切だよと話しても、なかなか説教じみた話は聞いてくれない。

例として、人を殺していくオンラインゲームがあります。様々な困難から生き残るサバイバルゲームですが、見方を変えれば人殺しのゲームです。中学生を中心に大ブームになって、（ゲームの）会話の中で「何人殺した」とか言っています。（内容的に）「エッ」と思うかも知れませんが、子どもに「何が面白いの」と聞いてみると、「やっぱり変だよ」と感じながらも世界に引き込まれていることがわかります。大人が「そんな人殺しのゲームなんてしちゃダメだよ」と話しても、私達の世代もチャンバラごっこかしましたよね、でも（ゲームは世界観に入り込む）深さが違うんですよ。ゲームを子ども達にばらまいている大人にも責任があるのかも知れません。ですから、子どもの言うことを真っ向から否定しない、子どもの行動に関心を持つ、という態度が必要なのかな、と私は思っています。

**波呂** パトロールや見張りの関係があったのですが、私が住んでいる地域でもピンク色のジャンパーを着て、大人は何かあったら子どもを助ける活動をしています。子ども達はみんな挨拶をしてくれますから、見張りというより見守りなのかな、と思います。



また「〇〇をしちゃダメだよ」という否定から入るのではなくて、「何をしているの、楽しいの」と興味を持つ、子どもに関心を持つというお話しがありました。我々から上の世代は、スマホ自体にあまり詳しくはないので、子ども達がやっていると距離感を感じてしまい、「何をやっているのか理解できない」となりがちです。「何をやってんだい、何が楽しいんだい」と子どもに声を掛けることであれば、スマホが苦手な私達でも、始められることなのかなと思います。

#### <保護者と地域の連携>

**波呂** 大澤さんのお話しの中で、PTAの現状のお話しがありました。PTAとして学校に関わるだけで、何か生まれるのではないかと、PTAと地域の関わり方の話にもなります。子どもの前で（スマホを）いじらないということについて、保護者間、PTA等で問題提起がありましたか？

**大澤** 本来ならば、（問題提起）すべきなのでしょうが、ありませんでした。

私自身意思が弱い人間なので、（スマホを）ついついいじってしまいます。親同士の連絡手段としても、今スマホは欠かせません。私は、子どもの（スマホでの）やりとりを見るようにして

います。そのように、各家庭で保護者が関わるようにしていけば、いじめのような深刻な事態は起きないのかなと思います。全て見ているわけではないので、別の所で起こる可能性はありますが、ただ可能な限りはしっかりと関わっていくというか、監視までするつもりはありませんが、「どんなやりとりをしているの」とか、そこを話題にして子どもとコミュニケーションをとります。スマホも渡しっぱなしではなくて、スマホにのめり込んで親と子の会話がな、接触がない状態にはならないようにと考えています。

P T Aという組織でいえば、学校、先生、地域が関わるというやり方が、もしかしたら、スマホとの関わり方にも必要なのかな、と思いました。

**波呂** 先週から文部科学省の委託事業を3回にわたって開催されております。先週の東部圏の会場で、館林市青少年育成推進員の方から「私達は誰も体験していない子育てをしている、大人自身も学ぶ機会になっている」というお話がありました。その時は「だから難しいなあ」という感想を持ちました。本日、内海先生、大澤さん、神保さんのお話を聞いて、これは大人が学び直せるチャンスとも言えるのかな、と感じました。内海先生の講演の中で、「健全育成とよく言うけれど、子どもだけで良いのですか。大人は朝御飯を食べていますか。80歳以上で20本以上歯が残るような生活をしていますか。」というお話がありました。（子どもへの関わりや子育ては）大人が振り返るチャンスです。

元学校の先生でもある神保さんに伺います。学校の現場から見て、親と地域の関わり方が、このような状況を前にしてどのように連携して話し合っていくのが好ましいと考えますか。

**神保** 今学校では、開かれた学校というのを一つのテーマにしています。地域や色々な方に学校を見てもらう活動がだんだん高まっています。そこで、私が居た学校でも、例えば2学期の運動会、文化発表会等保護者がたくさん来る機会があります。地域の皆様にも回覧板などで御案内して、子ども達の活躍を見てもらう機会も作っています。他の学校も同様です。このように、地域の大人が子ども達を見る。そして、子ども達も来ていた地域の大人を見て、町で行き会って挨拶をする。そういった中から、子ども達と地域の関わりが出てくると思います。このような草の根的な活動が積み重なることで、子ども達と地域の関係も深まっていくし、健全育成のヒントにもなるのかな、と思います。

**波呂** 大人の考え方も含めた地域連携等について、内海先生お願いします。

**内海** 全体的な話しからしますと、大人にも知識が必要です。知識がないまま注意しても、誰も耳を傾けません。子どもから教わるのが早いです。「どんなゲームしているの、ラインってどういうの、ひま部ってどういうの」とか、そういった話題から会話をしていきます。愛の反対は無関心です。子どもに関心を持つということから始めるのが良いと思います。私も、ついていけないの

で、子どもに教えてもらって勉強しています。オンラインゲームの名前がわからないと、子どもと会話が出来ないということもあります。子ども達はたくさんのことを教えてくれます。教えてもらいながら仲良くなっていく、子どもに関心を持つ。そのような状況で、自分達の伝えたいことを伝えていく。そうすることで、(子ども達は)人と関わるのが楽しいということがわかります。ですので、まずは、子ども達に挨拶をして、関心を持って声を掛け、会話をして、いつも忘れてないよ、というメッセージを地域の人が発信することが大切だと考えます。あ那时的一言が心強かった、支えになった、ということがあります。

**波呂** 最後に、この研修会が始まる前に、内海先生から、「子ども達が、学校で過ごす時間の割合は2～3割で、残りの7～8割が家庭や地域」という数字の紹介がありました。そして、「家庭や地域で子ども達は守られている、家庭や地域の関わりが大事です。」というお話があったことを御紹介させていただきます。

また、各家庭の問題は、学校、地域連携、地域の大人達、スマホの苦手な方でも出来ることあるとのお話がありました。

本日のパネルディスカッションで、一つでも二つでも御家庭に持ち帰って頂ければ幸いです。パネリストの皆様ありがとうございました。以上で終了とさせていただきます。

